



第 62 号
2014 年 11 月 18 日
LET 九州・沖縄支部事務局発行
〒808-0135 北九州市若松区ひびきの 1-1
北九州市立大学 長 加奈子研究室内
TEL 093-695-3249
E-mail: secretariat@jlet-ko.org
編集: 植田 正暢・松崎 徹・事務局

第 54 回 LET 全国研究大会を振り返って —2020 年の全国大会に向けて—

LET 名誉会長 木下 正義

LET 全国大会は 1961 年に第 1 回 LLA 大会（於：東京教育大学）が開催されてから今年で 54 回目を迎えた。1973 年の第 13 回大会（於：福岡大学）が開催されて以来、LET 九州・沖縄支部が主催した全国大会及び国際大会（WorldCALL 2008）は 8 回を数える。1962 年の第 2 回全国大会の講演テーマに「語学ラボラトリーとティーチングマシン」とあり、教育メディアを LL の利用に限定したものであった。今回のテーマを見ると「グローバル人材に資するこれからの外国語教育のあり方」とあり、54 年もの間に「外国語教育」がいかに変遷・変貌したかが窺える。

今大会の会場となった福岡大学は過去にも 3 回会場を無償で提供して頂いた。大会実行委員長の大津敦史先生（福岡大学）と大会事務局長の田上優子先生（福岡女子大学）を中心に 3 年前から準備委員会が発足し、約 20 名の実行委員とともに今回の大会の成功に貢献された。

大会は 8 月 4 日から 6 日まで開催され、第 1 日はワークショップ「因子分析の基礎について」、「Moodle を使ってみよう—概観と体験—」等 8 講座が実施された。各講座

に多数の参加者があった。

第 2 日は馬本誠也先生（福岡大学副学長）、竹内理先生（LET 会長）、島谷浩先生（大会会長・LET 九州・沖縄支部長）の大会挨拶から始まった。

佐藤学先生（学習院大学、東京大学名誉教授）による基調講演「言語リテラシー教育の再検討—言葉としての英語の学びへ—」には会場が満席になる程の参加者があった。佐藤先生が中学 1 年生の時に使用した最初の教科書『New Prince Readers』の第 1 課 “This is a pen.” と転校した先で学んだ教科書『Jack and Betty』の “I am a boy.” の文は何だったのかと疑問を投げかけた。現在の日本の英語教科書は①内容に乏しい、②内容が易しすぎる、③履修単語数が少な



いことが問題であると指摘された。語数については現在の指導要領で指導する標準語数は中高あわせて 3000 語であるのに対して、旧制中学では 12000 語、40 年前には 8000 語の履修が義務付けられていたという。また、リテラシーが指す教育内容を見た上で、リテラシー教育の 3 つのアプローチ、つまり①道具的イデオロギー、②相互作用イデオロギー、③再生産イデオロギーから言語リテラシーについて明確な説明を施された。日本の小学校の「英語教育」に触れて、体と歌で学ぶ英語教育指導には批判的な意見をされた。講演時はフロアに降りてきての講演で親近感を覚え、講演終了後の質問やコメントにも誠実に回答された。

大会 2 日目は 35 件の研究発表と 2 件の公募シンポジウムがあり、今大会テーマの「グローバル人材」に関連する発表をはじめ、メディアの利用・活用や語彙分析、テストイングなど多岐にわたる内容だった。発表テーマで参加者数は決まると言われるが、今大会では各会場に平均した参加者数があったように思われる。長年、数多くの研究発表に参加し拝聴したが、今回は発表時間を厳守する先生が多く、多くの質疑応答やコメントがあり有意義な研究発表があった。

大会 3 日目は午前中に 18 件の研究発表と 2 件の公募シンポジウムがあり、午後からは基調講演と全体シンポジウムがあった。基調講演「言語力育成を通しての複眼的思考・批判的思考の涵養」で講師の漆原朗子先生（北九州市立大学副学長・基盤教育センター教授）は、日本の英語教育の現状を概観した上で問題点を指摘され、言語力を育成するために 2 つのことを提案された。

1 つは英語学習レベルにおいて、母語に内在する暗黙知を英語学習に活かすことであり、もう 1 つはそのような母語を軸とした英語の学びの過程から得られる気づきを活かす、高次の思考法の育成である。これは多様な価値観を認め、常に客観的に物事をとらえる思考、つまり複眼的思考と批判的思考へとつながるという。

大会最後のプログラムである全体シンポジウム「グローバル人材育成に資するこれからの外国語教育のあり方」では、宮原哲先生（西南学院大学教授）がコミュニケーション教育のあり方について、北浩一郎氏（(株) LbE Japan 代表取締役社長）が自社主催の海外研修プログラムや留学プログラムについて、小野博先生（福岡大学客員教授）が福岡大学のグローバル・アクティブ・プログラム（GAP）と夏季休暇を利用した海外研修プログラムの実績について報告され、その後質疑応答があった。

閉会行事では次回の開催当番支部の若本夏美先生（LET 関西支部長・同志社女子大学）より挨拶があり、再会を誓って大会の幕が下ろされた。

LET 九州・沖縄支部が次回運営する全国大会は 6 年後の 2020 年である。この年は東京オリンピック開催の記念の年でもある。6 年後は外国語教育も大きく変化していくだ



ろうし、学習指導要領や検定教科書が変わる年でもある。大学入試も様変わりしているであろうし、少子化で大学入学希望者が大幅に減少して、特に地方の私立大学が募集停止もやむなき時代が到来するという嫌な予想が報道されている。そのような中で LET は外国語教育の “how to do”、“what to do” を問い続けながら教育・研鑽に精を出

し、会員相互が情報交換し、協力しあうことを期待したい。

最後に今回の大会に実行委員として大会運営に汗をかいて頂いた諸先生、大会期間中に大会を影で支えて頂いた福岡大学の学生及び賛助会員として大会の展示・プレゼンに協力してもらった企業に衷心より深謝したい。

LET54 全国研究大会回顧録

LET54 全国研究大会事務局長

田 上 優 子（福岡女子大学）

思いおこせば、始まりはハワイで在外研修中の大津先生からいただいたメールでした。「全国大会の開催というのは支部の皆で力を寄せ合い、大会に向けて一丸となる素晴らしい行事です。是非、来年度の LET 全国研究大会の事務局を務めてもらえませんか？もちろん皆で協力します。一緒にがんばりましょう。」

元来、表舞台よりは裏方仕事が好きな私ですが、事務局とえば LET 九州・沖縄支部事務局業務をパーフェクトにこなされている長先生のイメージが脳裏に浮かび「初めての事務局でしかも全国大会の仕事が私にできるのだろうか？」と不安でいっぱいでした。即答するには重すぎるご依頼でしたが、九州 LL 研究会（泉マス子西南学院大学名誉教授のご指導を受けて福岡近郊の LL スタッフを中心に勉強会を開いていたメンバー）で「学会デビュー」を果たしたのも平成 3 年に福岡大学で開催された LL 全国研究大会でした。何かのご縁と思い、一晩考えてお引き受けすることにしました。

あれから 2 年。

LET という学会は常々、他の学会と違う何かが感じられると思っていましたが、今回事務局業務をおこない、ソフトとハードの両面がこれほどまでに強固に補完して成り立っている学会は他にはないのではないかと痛感しました。全国大会を成功裏に終えることができたのも、会場を提供くださり、準備段階から建物図面や、電気配置図の提供のみならず物品の貸出、空調管理、照明管理まで細かく整えてくださった福岡大学職員の方々、設営・撤去にも甚大な力を貸してくださった福岡大学の学生さん、最先端の語学学習装置や学術書籍を揃えて参加くださる賛助会員の企業の皆さん。このようなソフトとハードに支えられ、この両者が作って下さった環境を最大限に生かせるように力を寄せ合ったのが実行委員の役どころだったのではないかと思います。

要項・パンフレット作成で、全体から細部に至るまで何万語という字句修正を最後まで責任をもってとりまとめて下さった島

谷支部長の完成に至るまでの根気強さ、緻密さに学ぶことは多かったです。無駄・スキを一切感じさせず、凛としてスマートな事務さばきの長先生には随分助けていただき、事前申し込み制度導入などの新しいことに挑戦する潔さを学びました。ここぞという時の竹野先生のコメント力は秀逸でその存在感は今後も目が離せません。準備期間から大会終了の最後まで、展示・広告責任者を務めて下さった田口先生のお仕事ぶりは、ハード業者とのやり取りや、福岡大学での頻繁な下見・採寸など、身を粉にして慎重にコツコツと完璧に遂行されたことに感動を覚えました。いつも笑顔でしかしテキパキと瞬時にあらゆることに対処して下さるワークショップご担当だった奥田先生には楽しく仕事をする極意を教わりました。その他、私の事務処理能力が追いつかず、ギリギリのところまで業務を振ってしまった先生方、本当にお世話になりました。本部事務局の住先生からの激励のメールに何度も自分を奮い立たせました。（これは大げさすぎる表現ですが、半ば本音です。）

最後に、私たちの最前列で目指す行く手を指し示し、時には後方から燦々と降り注

ぐハワイの太陽のように明るく暖かいお言葉をかけ続けてくださった大会実行委員長の大津先生には本当に感謝申し上げます。ソフト面・ハード面・実行委員の全てのニッチを埋めてくださったのは先生の人徳に他ならないと思います。

雨続きの3日間の全国大会でしたが、今思いだすのは、大会参加をされたすべての方々の笑顔であり、実行委員の先生方の輝くアロハシャツ姿です。拙いながら、事務局として大会運営を終えることができましたのも、大会に携わった全ての皆さまのおかげだと思います。この場をお借りして感謝と御礼を申し上げます。ひと夏の良い経験をさせていただきありがとうございます。



2014 年度 LET 理事会報告

LET 九州・沖縄支部副支部長
竹 野 茂（宮崎公立大学）

2014 年度 LET 全国研究大会初日、2014 年 8 月 4 日（月）13 時より約 4 時間に亘って、福岡大学文系センター15 階第 7 会議室において開催されました。

理事 30 名中 26 名出席、4 名委任状提出で会議は成立しております。

会議は竹内会長の挨拶を皮切りに始まり、慣例に従い、次回大会開催担当支部の関西

支部長、若本支部長を議長に選出し審議が開始されました。審議事項 10 件、報告事項 5 件、懇談事項 1 件、ネット稟議追認事項 2 件について審議しました。様々な重要な事項もありましたが、特に「学会の法人化問題」の懇談事項は、各学会員が主体的に学会の今後を見据えて考えなければならないものでした。今回法人に移行するかどうかの結論が出ているわけではありません。今後も議論を重ねなければならない問題です。

詳細については以下、項目毎の記述をお読みください。

<審議事項>

1) 学会賞内規の改訂について(本部事務局から)

「外国語教育メディア学会 (LET) 学会賞内規」改定案が本部事務局から提示された。

第 8 条ルの「受賞者に一人あたり 2 万円を上限として交通費を補助することができる」について、本部事務局が、(1) 対象者に本内規規定を周知すること、(2) 交通費の二重取りにならないという点に注意しながら運用するというを確認のうえ、提案を承認した。

2) 会員向け学会機関誌追加販売について(本部事務局から)

学会機関誌の追加購入について、本部が 1 冊千円で販売し、販売益は本部予算(雑費)に計上するという原案が承認された。

3) 慶弔事規定の改訂について(本部事務局から)

資料に基づいて本部事務局から提案があり、承認された。なお、今後規定類には、タイトル下に改訂日を記入することが確

認された。

4) 提携学会について(本部事務局から)

資料に基づいて本部事務局から提案があった。なお提携の提案に関しては「メール稟議」で理事会審議すること、提携の程度は相手学会と個別に相互で話し合ったうえで決めることが確認され、承認された。

5) CiNii サービス停止について(機関誌事務局から)

この件に関しては追加資料が配布された。CiNii のサービス停止に伴い、新規に国立情報学研究所が提供する J-STAGE Lite への移行を進めることが提案され、原案通り承認された。

6) 支部提案事項について

(九州・沖縄支部提案)

研究大会登録フォームの変更について

全国研究大会登録フォームで、(1) 入力されたデータが CSV ファイルにされた時、二次使用しにくいフォーマットになる問題および、(2) 登録ページに(会費納入期限前であるにもかかわらず)「会費未納」表示が出るという問題点、さらに (3) 共同発表者の英語での氏名登録枠の必要性が指摘され、修正の希望が出された。本部事務局からは、システム修正に関わる費用は、(1) については約 5 万円、(2) については 1.25 万円、さらに (3) についてもわずかな予算(ネットワーク関係費)で解決できる旨が報告され、本件について作業を開始することが承認された。

(関東支部提案)

支部機能の本部移管に関して

別紙資料の通り、関東支部から提案があった。資料のうち項目だけを以下に列挙しておく。

提案項目

- (1) 全国大会を本部予算で行う。
- (2) しぶき用の発行を本部に移管して、本部で予算化する。
- (3) 会員名簿の管理費用はすべて本部の負担とする。名簿管理も本部が統括する。
- (4) 支部による費用報告の書式等を統一する。
- (5) 運用に必要な費用を本部に蓄える。

これに対して、会長から、提案各事項の重要性に鑑み、次回支部長連絡会議等で引き続き検討するとともに、支部間の同意がとれたものから随時実施していきたいとの回答があり、これを理事会として了承した。

(関西支部)

退会に際する会費完納に関する規定を学会 HP に掲載する提案

原案のとおり承認された。

- 7) 2013 年度本部事業報告について（本部事務局から）

資料に基づいて説明があり、承認された。

- 8) 2013 年度本部決算報告（案）について（本部事務局から）

資料に基づいて説明があり、承認された。

- 9) 2014 年度本部事業計画について（本部事務局から）

資料に基づいて説明があり、承認された。

- 10) 2014 年度本部予算（案）について（本部事務局から）

資料に基づいて説明があり、承認された。

<報告事項>

1) 本部報告

- ・ 2014 年度各支部選出役員（本部事務局長から）
- ・ 2014 年度会員数について（本部事務局長から）
- ・ 2014 年度賛助会員について（本部事務局長から）
- ・ Newsletter No.95 発行予定（本部担当幹事から）
- ・ 「サーバー管理・HP 更新月額費」値上げ（本部事務局長から）
- ・ 関連学会との連携について（本部事務局より）
- ・ 外国語教育関連学会日本語論文書式について（本部事務局より）

上記事項について、各担当者から資料に基づいて説明が行われ、その内容について確認した。

2) 各種委員会からの報告（各委員長から）
学会賞選考委員会

資料に基づき、2014 年度学会賞選考の経緯報告があった。

なお、本年度「論文賞」受賞者の西田氏が、校務により学会賞授与式に参加できない旨、連絡があったという報告が本部事務局からあった。

機関誌編集委員会

資料に基づき機関誌投稿論文数と審査、出版準備の経緯報告があった。なお、機関

誌 51 号出版のスケジュールが遅れていることについて、今井編集委員事務局長から補足説明があった。

メルマガ編集委員会

資料に基づき、2013 年度の活動報告、および 2014 年度の活動方針について報告が行われた。

国際交流委員会

資料に基づき、2013 年度の活動報告、および 2014 年度の活動方針について報告が行われた。

3) 全国研究大会事前参加登録制について (九州・沖縄支部から)

資料に基づき、全国研究大会事前参加登録および事前申込の試行について、事前参加登録者数は、一般が 173 名、賛助会員が 83 件、合計 256 件であったこと、要項集申込が 130 件、懇親会申込が 110 件、ワークショップ申込が 122 件であったことが報告された。なお、クレジット決算に関しては、研究費での支払いに適した支払い方法としないため、今回は採用しなかったとの報告があった。なお、この際、関西支部長より、来年度の全国研究大会でも、同様の事前登録方法を採用する旨の報告があった。

4) 各支部報告（各支部長から）

- ・ 2013 年度各支部事業報告・決算について
 - ・ 2014 年度各支部事業計画・予算について
- 資料の内容について確認された。

5) 来年度の全国研究大会開催予定について (関西支部実行委員長)

場所：千里ライフサイエンスセンター

日時：2015 年 8 月 4 日(火)～8 月 6 日(木)
開催予定

オープンキャンパス等で大学キャンパスが使いにくくなっている状況から、試行的に会議場を利用する予定であること、海外からの講演者が内定していること、発表申込を 4 月以降にする試行案や、事前申込の試行を継続する予定であることが報告された。

なお、これに関連して 2016 年以降における全国研究大会の担当支部について会長より次の通り確認が行われた。

2016 年：関東

2017 年：中部

2018 年：関西

2019 年：関東

2020 年：九州・沖縄

<懇談事項>

学会法人化について

法人化検討委員会の中間報告、および各支部からの意見聴取結果の報告がなされた後、今後の検討事項や作業のあり方について懇談がなされた。種々の議論ののち、法人化検討委員会において、(1) 各支部からの不安事項（税務など）の洗い出し、(2) 専門家への不安事項の相談、(3) 法人化の意義や問題点、手順等についてのデータ収集、(4) 法人化後の組織オプション、(5) 法人化を行わない場合の対応策等について引き続き議論をおこない、来年度 7 月を目途に、会長へ報告書を提出することが確認された。

なお、英文学会で法人業務の経験のある関東支部の奥先生を委員会メンバーとして追加することも確認された。

＜ネット稟議追認事項＞

1) FLEAT VI ビジネス・ミーティング派遣について

「名部井本部幹事（国際交流委員長）を2014年8月7日から10日まで、Harvard University に派遣すること」

2) 竹蓋幸生先生ご逝去、弔電について

「竹内会長より、2014年4月30日の千葉大学名誉教授の竹蓋幸生先生（享年 78

歳）ご逝去に際し、竹蓋先生の外国語教育会への功績と本会会員としての献身的な貢献を鑑み本会の慶弔規定にかかわらず、弔電等の対応を本部としてすること。尚、今回の対応については、特例としての対応であり、今後本会慶弔事規定の見直しを行うものとする。」

上記の 2 件についてネット稟議の際に異議がなかったので承認されたものとしての提案があり、これらを追認した。

LET 法人化検討委員会について

LET 法人化検討委員

長 加 奈 子（北九州市立大学）

2013 年度理事会において、学会法人化に向けての対応を検討する委員会が会長の諮問機関として設置されることが決まりました。各支部より 1 名選出するよう竹内理会長より依頼があり、九州・沖縄支部からは長加奈子が選出され、2015 年 8 月の答申に向けて議論を進めています。

木下正義名誉会長が会長をお務めの際に、一度、LET は法人化しないという決定を行いました。その後、日本学術会議から学術団体に対して、何らかの形での法人化を求める要請がなされ、その要請を受けて本委員会は設置されました。

LET が設立され今年で 54 年になります。LET は、地方組織である四支部の独自性をお互いに尊重している学会です。「支部」という名称ではあるものの、支部大会の開催回数、支部紀要の発行の有無など、各支部

の実情に合わせて運営されています。九州・沖縄支部が関西支部から独立して今年で 44 年になります。九州・沖縄支部の自律性と独自性が担保できるよう、慎重に議論を進めていきたいと考えております。

英語教育関係の学会では大学英語教育学会（JACET）が既に法人化を行っています。その一方、既存の学術団体の大部分が、未だ法人化をしていない状態です。他学会の動向を踏まえつつ、LET としてより良い方向に進んで行けたらと考えております。

現在もどのような形が LET として最善であるか、検討委員会では活発な意見の交換が行われております。本学会の法人化について、九州・沖縄支部会員のご意見もお聞きしたいと思いますので、ご意見等ございましたら、事務局までお寄せ下さい。

2014 年度支部総会報告

LET 九州・沖縄支部長
島 谷 浩 (熊本大学)

本年度の支部総会は、2014 年 6 月 14 日（土）に福岡大学を会場として実施された支部ワークショップに合わせて開催されました。本支部が 2014 年度の全国研究大会をホストするため、本年度の支部研究大会は開催されなかったからです。

総会の議長に岩本弓子先生（福岡大学、福岡女学院大学短期大学部（非常勤））が選出され、議事は以下のように進行了しました。

<議題>

(1) 2013 年度支部事業報告・支部決算報告について

2013 年度支部事業報告と支部決算報告書が、長支部事務局長より報告され承認されました。詳細は、資料①と資料②をご覧ください。

(2) 2014 年度支部事業計画案・予算案について

2014 年度支部事業計画案と予算案が、支部事務局長より提案され承認されました。活動計画の主な変更点は、全国研究大会開催のため、支部研究大会が開催されない点です。詳細は、資料③と資料④をご覧ください。

(3) 支部紀要執筆規程改正について

前年度より支部紀要編集委員会において検討していただきました支部紀要執筆規程の改正案が、支部長より提案され承認されました。

今回の改正により、支部紀要の基本執筆

様式は、本学会機関誌『Language Education & Technology』に準拠するものとなりました。これは、本学会支部長連絡会で、外国語教育関連学会間での日本語論文書式の統一化の必要性が議論され、統一化に向けて検討する動きになっていることに起因しています。まず学会内で、紀要の書式を統一させることが望ましいという結論に達しました。

総会で承認されました改正規程は、同日から施行されております。新規定は、支部ホームページの会則・各種規程のページにてご確認ください。

<報告>

(1) 2014 年度～2015 年度の支部役員について

2013 年度末に支部メーリングリストにおいて承認いただいた 2014 年度～2015 年度の支部役員リスト（資料⑤）が支部長より報告されました。

(2) 2015 年度支部研究大会について

2015 年度支部研究大会の開催日、会場、大会実行委員長が、次のように支部長より報告され承認されました。

期日：2015 年 6 月 13 日（土）

会場：長崎大学言語教育センター

大会実行委員長：小笠原真司先生
(長崎大学)

以上、ご報告いたします。

【九州・沖縄支部】
＜2013 年度事業報告＞

1. 開催行事関連

1) 支部研究大会

2013 年 6 月 8 日（土） 会場：西南学院大学
大会テーマ： 「コーパスを活かした英語教育」
＜講演＞ 講演者：石川 慎一郎 先生（神戸大学）
題目：中間言語研究への新しいアプローチ：SLA とコーパスの架橋
＜ワークショップ＞
『授業における iPad の活用』 中村 砂織 先生（Well 株式会社）
＜シンポジウム＞
『コーパスを活かした英語教育』
コーディネーター・パネリスト： 長 加奈子 先生（北九州市立大学）
パネリスト： 鈴木 千鶴子 先生（長崎純心大学）
石川 有香 先生（名古屋工業大学）
冬野 美晴 先生（西南学院大学）

2) 第 53 回全国研究大会

2013 年 8 月 7 日（水）～9 日（金）
会場：文京学院大学
大会テーマ：「外国語学習への動機づけを高める仕掛け」

3) 学術講演会

2013 年 11 月 9 日（土） 会場：福岡大学
講師：Thomas N. Robb 先生（京都産業大学）
題目：Considerations for Implementing Technology in Language Education

2. 支部総会・支部評議員会

2013 年 6 月 8 日（土）西南学院大学

3. 支部運営委員会

第 1 回 2013 年 5 月 11 日（土）西南学院大学
第 2 回 2013 年 11 月 9 日（土）福岡大学
第 3 回 2014 年 2 月 15 日（土）西南学院大学
第 4 回 2014 年 3 月 22 日（土）福岡大学

4. 支部内理事会

第 1 回 2013 年 5 月 11 日（土） 西南学院大学
第 2 回 2013 年 9 月 28 日（土） 西南学院大学
第 3 回 2014 年 2 月 15 日（土） 西南学院大学
第 4 回 2014 年 3 月 22 日（土） 福岡大学

【九州・沖縄支部】
＜2013 年度事業報告＞

5. 支部研究プロジェクト

2013-14 年度 第 8 回支部研究プロジェクトチーム（新規）

テーマ：「英語学習者の自律性を高める Blended Learning の試行―大規模な
学習者を対象にした英語再履修クラスの改革―」

研究代表者：大津 敦史（福岡大学）

6. LET 九州・沖縄支部「支部だより」

2013 年 5 月 15 日（水） 第 59 号発行

2013 年 11 月 1 日（金） 第 60 号発行

7. LET 九州・沖縄支部紀要

2014 年 3 月 1 日（土） 第 14 号発行

8. 第 54 回全国研究大会実行委員会

2013 年 11 月 9 日（土） 第 1 回リーダー会議

2014 年 3 月 22 日（土） 第 2 回リーダー会議

以上

2013年度 外国語教育メディア学会九州・沖縄支部 決算報告書

2014年3月31日

収入の部

項 目	決算額 (円)	内 訳	予算 (円)	差 額
前年度繰越金	257,122		257,122	0
学会費	775,500	個人会員 @6,000 ×115件 学生会員 @3,000 ×2件 団体会員 @6000 ×13件 3件(2011年度以前)、3件(2012) 123件(2013)、1件(2014) 過徴収1,500円(2014年度分に充当)	691,500 6,000 78,000	109,500
雑収入	424,256	1. 展示協賛金 299,580 第43回支部研究大会展示協賛(14社、15区画) 2. 広告掲載料 90,000 支部紀要広告協賛(第12号1社、第13号5社、第14号1社) 3. 寄付金その他 3,176 交通費補助寄付(500円)、利息(2,676円) 4. 紀要投稿料 19,000 第14号支部紀要投稿料 5. 学会当日会員資料代 12,500 第43回支部研究大会(1,000円×12名、500円×1名)	351,000 200,000 60,000 1,000 80,000 10,000	73,256 129,580 2,176 ▲61,000 2,500
支部積立金より繰入	850,000	支部積立金より繰入	850,000	0
合 計	2,306,878		2,124,122	182,756

支出の部

項 目	決算額 (円)	内 訳	予算 (円)	差 額
支部大会開催費	284,377	第43回支部研究大会開催費(講師謝礼、講師旅費・宿泊費、アルバイト代、ワークショップ資材代、宅配送料、実行委員・学生アルバイトお弁当代、講師懇親会会費負担分、支部研究大会準備金)	288,200	3,823
人件費	9,600	事務局アルバイト代	10,000	400
印刷費	344,386	支部紀要第13号印刷費 252,000円、封筒印刷費 28,350円、第43回支部研究大会発表要綱・プログラム印刷費 50,610円、各種委員会資料印刷等 13,426円	350,000	5,614
通信費	80,700	送料	100,000	19,300
会議費	83,492	支部運営委員会、紀要編集委員会、支部評議員会等の開催に伴う経費	80,000	▲3,492
謝礼費	48,000	事務局謝礼	48,000	0
旅費	162,670	運営委員会、紀要編集委員会参加補助費として	150,000	▲12,670
事務局費	19,808	宛名ラベル、領収書、封筒、PPC用紙、文具等	20,000	192
支部分担金	100,800	672,000円×15%	100,800	0
学術講演会	67,340	講師謝礼・交通費、懇親会費(講師分)	40,000	▲27,340
支部研究プロジェクト補助費	130,000	2013-14年度プロジェクト 代表：大津敦史(福岡大学)	130,000	0
会費徴収委託費	57,437		60,000	2,563
雑費	9,691	送金手数料、弔電代	20,000	10,309
第54回全国研究大会開催準備金	700,000	第54回全国研究大会事務局へ	700,000	0
支部積立金	0	(2014年3月31日付支部積立金残高：2,161,131円)	0	0
次年度繰越金	208,577		27,122	▲181,455
合 計	2,306,878		2,124,122	▲182,756

以上、報告します。

外国語教育メディア学会九州・沖縄支部

事務局長 長 加奈子



以上、相違ありません。

会計監査

林 千晶



会計監査

土持 かおり



【九州・沖縄支部】
＜2014 年度事業計画＞

1. 開催行事関連

1) 第 54 回全国研究大会

2014 年 8 月 4 日（月）～6 日（水） 会場：福岡大学
大会テーマ：「グローバル人材育成に資するこれからの外国語教育のあり方」

2) 学術講演会・ワークショップ

2014 年 6 月 14 日（土） 会場：福岡大学
講師：植田 正暢先生（北九州市立大学）
題目：iPad の活用可能性について
2014 年 12 月（予定）

2. 支部総会・支部評議員会

2014 年 6 月 14 日（土） 会場：福岡大学

3. 支部運営委員会

第 1 回	2014 年	5 月 17 日（土）	西南学院大学
第 2 回	2014 年	9 月	西南学院大学
第 3 回	2014 年	12 月	西南学院大学
第 4 回	2015 年	3 月	西南学院大学

4. 支部研究プロジェクト

2013-14 年度 第 8 回支部研究プロジェクトチーム
テーマ：「英語学習者の自律性を高める Blended Learning の試行―大規模な
学習者を対象にした英語再履修クラスの改革―」
研究代表者：大津 敦史（福岡大学）
2014-15 年度 第 9 回支部研究プロジェクトチーム
テーマ：Modelling student satisfaction for English Communication
majors
研究代表者：Peter Carter（九州産業大学）

5. LET 九州・沖縄支部「支部だより」

2014 年 5 月 15 日 第 61 号発行
2014 年 11 月 1 日 第 62 号発行

6. LET 九州・沖縄支部紀要

2015 年 3 月 1 日 第 15 号発行

7. 第 54 回全国研究大会実行委員会

1) リーダー会議

2014 年	4 月 19 日（土）	第 3 回リーダー会議	福岡大学
2014 年	5 月 17 日（土）	第 4 回リーダー会議	西南学院大学

2) 全体実行委員会

2014 年	6 月 14 日（土）	第 1 回実行委員会	福岡大学
2014 年	7 月	第 2 回実行委員会	福岡大学

以上

2014年度 外国語教育メディア学会九州・沖縄支部 予算

2014年4月1日

収入の部

項 目	予算額 (円)	備 考	前年度予算	差 額
前年度繰越金	208,577		257,122	▲ 48,545
学会費	732,000	個人会員 @6,000 ×110件 660,000		▲ 6,000
		学生会員 @3,000 ×2件 6,000	666,000	6,000
		団体会員 @6,000 ×11件 66,000		66,000
雑収入	141,000		351,000	▲ 210,000
		内訳 1. 展示協賛料 -	200,000	▲ 200,000
		2. 広告掲載料 60,000 支部紀要第14号への広告掲載料	60,000	0
		3. 寄付金その他 1,000 寄付、利息等	1,000	0
		4. 紀要投稿料 80,000 支部紀要第15号への投稿料	80,000	0
支部積立金より繰入	150,000	(2014年3月31日付 支部積立金残高：2,161,131円)	850,000	▲ 700,000
				0
				0
合 計	1,231,577		2,124,122	▲ 892,545

支出の部

項 目	予算額	備 考	前年度予算	差 額
支部大会開催費	0		288,200	288,200
人件費	10,000	事務局アルバイト	10,000	0
印刷費	300,000	支部紀要第14号、封筒等の印刷	350,000	50,000
通信費	100,000	送料	100,000	0
会議費	100,000	支部運営委員会、紀要編集委員会、支部大会実行委員会、評議員会、全国大会実行委員会等の開催に伴う経費	80,000	▲ 20,000
謝礼費	48,000	事務局謝礼	48,000	0
旅費	200,000	支部運営委員会、紀要編集委員会等への参加補助	150,000	▲ 50,000
事務局費	30,000	宛名ラベル、領収書、文具等	20,000	▲ 10,000
学術講演会・ワークショップ	80,000	春季・秋季各1回	40,000	▲ 40,000
支部分担金	116,325	本部への支払い (0.15 ×775,500)	100,800	▲ 15,525
支部研究プロジェクト補助費	130,000	研究代表者：Peter Carter (九州産業大学)	130,000	0
会費徴収委託費	60,000	1人500円×120名	60,000	0
雑費	20,000	振り込み手数料等	20,000	0
支部積立金	0		0	0
第54回全国研究大会開催費	0		700,000	700,000
支部運営予備費	37,252		27,122	▲ 10,130
合 計	1,231,577		2,124,122	892,545

外国語教育メディア学会九州・沖縄支部

事務局長 長 加奈子

2014～2015 年度 外国語教育メディア学会九州・沖縄支部役員

名誉支部長

池浦貞彦（福岡教育大学名誉教授）

支部長

島谷 浩（熊本大学）

副支部長

田口 純（筑紫女学園大学）・竹野 茂（宮崎公立大学）

事務局長

長 加奈子（北九州市立大学）

理事

島谷 浩（熊本大学）・竹野 茂（宮崎公立大学）

田口 純（筑紫女学園大学）・長 加奈子（北九州市立大学）

支部幹事

松崎 徹（筑紫女学園大学）

会計監査

土持かおり（鹿児島県立短期大学）・林 千晶（福岡女学院大学）

運営委員（50 音順）20 名

荒木瑞夫（宮崎大学）・石井和仁（福岡大学）

植田正暢（北九州市立大学）・大藺修一（九州産業大学）

大津敦史（福岡大学）・柿元悦子（九州産業大学）

川尻 徳（久留米工業大学非常勤）・木下正義（元福岡国際大学）

島谷 浩（熊本大学）・田口 純（筑紫女学園大学）

武井俊詳（西南学院大学）・竹野 茂（宮崎公立大学）

田上優子（福岡女子大学）・長 加奈子（北九州市立大学）

中野秀子（九州女子大学）・仲山雄二（荒尾高等学校）

古村由美子（長崎大学）・松崎 徹（筑紫女学園大学）

山内ひさ子（長崎県立大学）・米岡ジュリ（熊本学園大学）

評議員（50 音順）34 名 ＊は運営委員を兼ねる

荒木瑞夫＊（宮崎大学）・石井和仁＊（福岡大学）

植田正暢*（北九州市立大学）・大藁修一*（九州産業大学）
大津敦史*（福岡大学）・奥田裕司（福岡大学）
柿元悦子*（九州産業大学）・柏木哲也（北九州市立大学）
川北直子（宮崎県立看護大学）・川尻 徳*（久留米工業大学非常勤）
木下正義*（元福岡国際大学）・坂元真理子（鹿児島工業高等専門学校）
島谷 浩*（熊本大学）・白坂佳代（宮崎県立看護大学）
田口 純*（筑紫女学園大学）・武井俊詳*（西南学院大学）
竹野 茂*（宮崎公立大学）・田上優子*（福岡女子大学）
長 加奈子*（北九州市立大学）・綱 智子（福岡教育大学非常勤）
東矢光代（琉球大学）・中島 亨（福岡教育大学）
中野秀子*（九州女子大学）・仲山雄二*（荒尾高等学校）
林 日出男（熊本学園大学）・樋口晶彦（鹿児島大学）
古村由美子*（長崎大学）・松崎 徹*（筑紫女学園大学）
水野邦太郎（福岡県立大学）・安浪誠祐（熊本大学）
山内ひさ子*（長崎県立大学）・雪丸尚美（北九州市立大学）
與古光 宏（九州産業大学）・米岡ジュリ*（熊本学園大学）

学会誌編集委員

折田 充（熊本大学）・林 日出男（熊本学園大学）

国際交流委員

荒木瑞夫（宮崎大学）

学会賞選考委員

山内ひさ子（長崎県立大学）・東矢光代（琉球大学）

メールマガジン担当委員

古村由美子（長崎大学）・雪丸尚美（北九州市立大学）

支部紀要編集委員

中野秀子（九州女子大学）・大藁修一（九州産業大学）
田上優子（福岡女子大学）・森礼子（福岡県立大学）
米岡ジュリ（熊本学園大学）

「支部だより」編集委員

植田正暢（北九州市立大学）・松崎 徹（筑紫女学園大学）・事務局

事務局からのお知らせ

【新会員（支部の移動を含む）】（五十音順）

<個人会員>

飯村 英樹（熊本県立大学）

Kimber Larry（福岡大学）

小林 啓子（大分上野丘高校）

高波 幸代（東洋大学・非）

林 裕子（佐賀大学）

深津 勇仁（日本経済大学・リンデンホールスクール中高学部）

<学生会員>

岡田美鈴（九州大学大学院）

【2014 年度学術講演会】

以下の日程で2014年度秋季学術講演会が開催されます。講演会終了後、懇親会を予定しております。詳細につきましては、決まり次第支部 HP に掲載いたします。

日時：2015 年 1 月 31 日（土）

15：30～17：00

会場：未定

講師：中野 秀子先生（九州女子大学）

夏目 季代久先生（九州工業大学）

演題：脳科学から見た英語学習（仮題）

参加費：無料

【第 44 回支部大会】

第 44 回支部大会が以下の日程で開催されます。

日時：2015 年 6 月 13 日（土）

会場：長崎大学（長崎県長崎市）

大会テーマ：「授業は英語で」を支える
理論とその実践

口頭発表受付：2015 年 1 月中旬より（予定）

【第 55 回全国大会】

第 55 回 LET 全国大会が以下の日程で開催されます。

日時：2015 年 8 月 4 日から 6 日

会場：千里ライフサイエンスセンター
（大阪府豊中市）

【支部研究プロジェクト】

今年度の締め切りは2015年2月末日です。多くのプロジェクトの応募をお待ち申し上げます。詳細につきましては、支部ホームページのプロジェクトに関する規定をご覧ください。

【会費納入のお願い】

2014 年度までの会費をまだ納入されていない会員の方は、お早めにお振り込みいただきますようお願いいたします（個人会員・団体会員は 6000 円、学生会員は 3000 円）。未納の状態が続く場合には支部からの発送物を停止させていただく場合がございます。支部の円滑な運営の為にもご協力をお願いいたします。なお住所・所属等に変更が生じた場合には、学会本部の HP より変更していただきますようお願い申し上げます。

【LET ホームページ】

LET 本部 <http://www.j-let.org>

LET 九州・沖縄支部

<http://www.j-let-ko.org/>

【LET 九州・沖縄支部事務局】

〒808-0135 北九州市若松区ひびきの 1-1

北九州市立大学 長 加奈子 研究室